

令和二年度 卒業記念号

旅立ちの季節



関西金光学園

金光藤蔭高等学校

第七十三期生

令和三年三月四日

「救い」をもたらす 人の働き

理事長
湯川 彌壽善



本校に学び、卒業を迎えられた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

ちょうど一年前を思い出します。まだまだ手探りの中でコロナ対応を施しつつ、昨年度の卒業式が挙行されました。そして、そこからの一年間については、渦中であつた皆さん方自身は、一番よくお分りになっておられるはず。ともあれ、こうして皆さん一人ひとりが卒業を迎えられたことを、共に喜び合いたいと思います。

人間が生きていくのはやはり大変で、予想もしない困難がつきまとうものだということ、コロナが引き金となつて一層にぶらり出されたこの一年でした。様々な立場で苦境に立つ人たちのニュースには、じわじわと重苦しさだけが響いてくるばかりです。ただ、それで終わらないのが人間です。「京都にある飲食店のシェフが仕事を終える」というテレビの報道を見て、思わず画面にぐびづけになったと、心療内科医の海原(うみはら)純子(じゆんこ)さんが、新聞の連載コラムに書いていました。理由は、店の入口に張つてある一枚の紙が映し出されたからです。そこには「お金のない人はただで食べさせてあげます」と無造作に

書かれていました。「何だろう」と思わず続きに見入つたそうですが、かいつまんで申せば、こういうことでした。

七十歳のシェフは、お金がなく困つていた若い時、周囲から手助けしてもらつたので、自分も若い人を支援しようと思つたそうです。それが張り紙の理由です。店には数百円の食事代も厳しい学生たちがやってくる。シェフは彼らに無料の食事をふるまいます。空腹だつた彼らの表情が、明るくなつていくのがうれしとシェフは言います。「自分が若い人を手助けする。その若い人たちが成長して、次の世代の若い人たちの手助けをする。そうして順ぐりに手助けしていけばいい」。これがシェフの考え方です。

店のノートには感謝と、いつかその恩返しをしたいという、学生たちの言葉が綴られていきます。シェフが辞めると聞いて、多くの人が集まつてきました。実際にこの店で食事の提供を受け、三十代になり自分で会社を経営する一人の若者は、職になかなか就けない人たちが積極的に採用して、働く場を提供していると言います。「自分が支援してもらつたから、今度は自分が支援できる立場になつて人を手助けするんです」。これがその若者の言葉です。

このお話のように、苦境にあえぐ人たちが支えられ、一方でその人たちが支えられるのです。何も特別な人が助けるのではなく、みんな普通の人たちが助け合つて動きます。なぜ助けようとするのでしょうか。社会には、そのような人がたくさんいます。中には、どうしてそこまで人のために尽くせるのか、と思えるような人物も、存在します。ここには、人間と

はそういうものだという、人としての本質が現れているように、思ふてなりません。そして、自分では同じような手助けができません。そういう人間の姿に救われる思いがするので

「人が人を助ける」。そこに人間の人間らしさがあるのかも知れません。人は人に助けられ、また同時に人を助ける。人間とはそのような働きを宿した存在だということをお忘れず、ここからの人生を歩んでいただきたいと、心から願っています。

「心豊かに 活躍されることを。」

校長

安元祥二



一日と暖かさが増し、春の訪れを感じさせる季節を迎えました。本日、卒業証書授与式を挙行し、二、四名の皆さんに本校の卒業証書を授与いたしました。これもひとえに、「天地の大徳と人々の祈りのお蔭」であり、卒業される生徒の皆さん、保護者の皆様の努力の賜物です。「ご卒業、誠にありがとうございます。」

保護者の皆様、お子様は三年前に本校に入学し、三年間、授業や学校生活の様々な場面で学び、青春のエネルギーを燃焼させ、心身ともに大きく成長されました。一方、保護者の皆様にとっては、時にご苦労もおありだったのではないかと拝察

いたします。私も学校教職員も、三年間、精一杯、お子様の成長に取り組ませていただきました。本日、晴れて「卒業」という実を結びましたことに、心からの敬意とお祝いを申し上げます。

本日の卒業式は、お子様にとっては「一生に一度の大事な卒業式」です。式の実施について検討いたしました。新型コロナウイルス感染症状況を鑑みながら、式の工夫や簡素化により感染対策をとつた上で、授与式を厳粛に実施させていただきました。

さて、卒業生の皆さん、皆さん一人ひとりの心には、本校で過ごした歳月が、今、深い感激としてよみがえつてのことと思ひます。同級生や先輩・後輩、先生方との沢山の経験は、忘れない思い出となつて、これからの人生において懐かしく思い出され、時には励ましとなることでしょう。三年間の思い出深い学びを今旅立ちとして生かして、皆さんに、心からお祝いを申し上げます。「ご卒業、おめでとうございます。」

ところで、卒業は「一つの到達点」であるとともに、「新しい世界への旅立ち」でもあります。皆さんが旅立ちつ社会は、進歩・就職のいずれにおいても、高次元の時代と格段に違う厳しさがあります。これまで以上に、行動責任や結果責任が強く求められてきます。

広く社会を見渡せば、我が国では、政治・経済の問題、国際外交の問題、自然災害やエネルギー問題もあり、世界を見て、国や民族や宗教で様々な抗争、複雑な経済問題、地球規模での環境問題等、社会の様々な分野で大きな課題が山積していま

す。中でも、国際外交の問題や、気候変動の問題は、まさに待たなしです。

また、新型コロナウイルス感染症が世界を混乱に陥れていますが、これからの社会では、変化する状況や、曖昧な課題に対して、自分で考えたり、行動する力が求められてきます。そのような課題山積の「時代」に、本校で学び、巣立つ皆さんには、それぞれの進み分野で自己の研鑽に努め、時代の要請に応えていただきたいと、心から願っております。

そのために、皆さんに次のことをお願いいたします。一つ目は、「志や目標」をしっかり持つていただきたい。自分が社会の中で如何にお役に立つかという、前向きな「志や目標」を是非持つてください。「志や目標」を追求する努力の過程が、これからの皆さんの実践的学びであり、皆さんが社会に貢献するために必要なことです。皆さんの今後に期待したいと思います。

二つ目は、「人を思う心」を大切にしたいです。人は、自分一人では生きていきません。私達はいろいろな人の支えや活動によって生かされ、また、私達一人ひとりが「それぞれの場で役割を果たす」とによって社会を支えています。周りの方々や社会に対する「思う心」をしっかりと持って、人生を送ってください。

卒業生の皆さん、「卒業」の意味をしっかりと受け止め、これからは「自立した大人」として努力を重ね、社会に責任を果たしてください。皆さん一人ひとりが、心身ともに世界を広げ、心豊かに活躍されることを、心より祈っております。

卒業生の言葉

文理進学

三年間を振り返って

一組 平田 伯



金光藤蔭で過ごした三年間は、中学卒業のタイミングで想像した学校生活よりも、数倍も楽しく、充実していたと思います。最初はクラス七人という少人数に馴染む事が難しいと思っていました。あつという間に友達になっていたり、独特なニックネームをつけられたりと、かなり精神的に助けられました。仲良くなりすぎて、友達と喧嘩をしまい、指導されたこともあったりと、一年目は心に波のある一年でした。

二年生になってからは、まさかの他コースとの共同授業があり、相手側のぎやかな雰囲気負け、全く話せなかったり、十二月には海外語学研修でシンガポールとマレーシアに行ったりと、新しい経験をさせてもらいました。特に、現地の歓迎式典内で生徒代表として、英語でスピーチをした事は、忘れられない思い出となりました。また、自分でも取得できると思っていなかった英検・数検・漢検等に合格し、三年間の中で一番充実した一年だと感じました。

ただ三年生になってからは

新型コロナウイルス感染拡大で三カ月もともに学校に行けず、大学のオープンキャンパスに行こうとしてもどこもかしこも「中止」という事態で何とも消化不良な一年になってしまいました。

それでも、自分自身ここまで学校に行く事が楽しいと思えたのは人生で初めてだったので、自分に接してくれた人のおかげだと思えます。本当に、三年間ありがとうございました。

エンカレッジ

成長を実感した三年間

二組 大石 茜



私の高校生活三年間は友人や先生たちのおかげで充実したものでした。

私は、中学生の時にいろいろなことがあって学校に行かなかった時期があり、高校に入学した当初は本当にこの学校でやっていけるのかどうかと不安で仕方ありませんでした。しかし、私は中学校をきちんと登校しなかったことや、行事に参加しなかったこと、友人と一緒に勉強してこなかったこと、クラスメイトともっと会話していれば良かったと思うこと、学校に行かなくて親に心配をかけてしまったことを後悔して

いました。そのため、私は高校に入って自分が「あの時こうしていれば良かった」という後悔を少しでも減らせるように、毎日学校に行き、勉強をして、クラスメイトとも話をし、充実した高校生活を送れるように頑張りました。その結果、私は入学してから一日も休まず登校し、学業面では成績優良を取り続け、指定校推薦の枠を取ることができました。

「後悔しないように」と行動していても、どうすれば良いのか分からない時には先生や友達が相談に乗ってくれました。この三年間、楽しいことだけではなく、辛いこともありましたが、優しい友人や先生たちに恵まれて私は本当に良かったです。これから友人たちとは別々の道を歩むことになり、なかなか会えなくなってしまうと思いますが、お互い頑張っていけたらと思います。

三年間本当にありがとうございました。

ITライセンス

三年間を振り返って

三組 須崎 龍菜



僕はこの三年間で、少しは変わったと思います。まず勉強面です。一年の頃は勉強がすさまじく嫌いでしたが、優しい先生

方、友人のおかげでそれは変わりました。しっかりと教えてくれる先生、優しく教えてくれる友達、僕はとても感謝しています。

次に変わったのは対人関係です。中学の頃は小学校から一緒に友達がいっぱいいて、初対面の人が少ないですが、高校ではほぼ全員が他人でした。人見知りの僕は入学後すぐに大量の黒歴史を作りました。クラスにはいくつものグループができていて、仲の良いグループに居れば良かったのに、皆に気に入られたという理由で他のグループにも行き来して

いました。そのせいで、班が減茶苦茶になったりしました。みんなごめん。でも、そのおかげかは知らないですが、藤蔭祭のリーダーになったときは、みんなをまとめあげたり、ちょっとしたいざこざも解決したりもできたし、藤蔭祭だけでなく体育大会など別の行事でも、みんなをまとめあげることができました。人見知りを克服できて、学校外の人たちとも仲良くなりました。

正直な話、僕は最初、高校を卒業さえできればいいと思っていて、中学のようにいかに思っていた以上に学校が楽しくて、毎日行くのが楽しみになっていました。先生、友達も優しく、面白くて、この学校に入学して改めて良かったなと思っています。ありがとうございました。

アートアニメーション

三年間で成長できたこと

四組 大津 裕愛



私は、小学生の時から初対面の人と話すことが苦手な内向的な性格でした。中学生の時、少しでもその性格を直したいと思い運動部へ入部しました。三年間続けて、敬語や礼儀を身に付けてきましたが、性格は変わらないままです。「このままではいけない。変わりたい」とずっと思っていて高校生になり、まずは自分から声をかけるようにしました。ここで一歩を踏み出さなければ何も変わらないと思います、勇気をしばって声をかけていくことで少しずつ楽しい時間が増えていきました。

特に三年生での文化祭では、制作した紙芝居を舞台で発表するために、文化祭運営委員として活躍できたことは一番思い出に残っています。クラスの仲間に出声をかけ、グループになって一致団結を図り金賞を受賞することができました。終わってからクラスの仲間感謝の言葉を述べると拍手をもらって嬉しかったです。そして、役割を果たせて良かったと自信につながっています。

将来は、社会に出て大勢の人と話すとやブレゼンテーションをする機会が増えていく

と思います。私はこの高校生活で経験した、「一步を踏み出す勇氣を持つ」ことを忘れず、これからも自分の道をしつかり歩んでいきたいと思っています。

ライフクリエイトライブ

成長

五組 射手矢 美奈



私が三年間生活してきた中で一番印象に残っていることは、三年生の時の藤蔭祭です。藤蔭祭では舞台発表をし、劇の主要メンバーとして、ダンスや劇をしました。最初は全然うまくいかず、メンバーの交代や内容の変更があったのですが、次第に全員の気持ちがそろってきて、練習もうまく進めることができ、本番では全員が納得のいく作品ができたと思います。もし、みんなの性格や考え方が一年生の時のままだったら良い作品は絶対に出ていなかったと感じています。私たちが成功させることが出来たのは、一年生の時から学年部長の佐々木先生が言い続けてくださった「高校生としての自覚」を持ってたからだと感じています。「高校生としての自覚」を持つことで、全員が少しずつではありますが成長していると感じており、私自身、成長していると実感できることもありま

した。

私は高校三年間での成長を糧に、卒業後に活かして行きたいと思っています。

金光藤蔭での三年間

六組 北野 奈美



金光藤蔭での高校生活はあっという間でした。振り返ってみて色々なことがあったけれど、どれも楽しい思い出になったと思います。こう思えるようになったのは親しくしてくれた同級生、思いやりのある先生方のおかげだと感じます。ありがとうございます。七十三期生の皆は第一線での活躍を目指す人や、他人の痛みを知っている人、友達思いの人、その個性は十人十色でした。皆からさまざまなことを知り、どんな人からでも学ぶことがあるということを実感しました。

受験勉強では自分の無知さに落胆した時もありました。優先順位を間違えたり、環境を言い訳にしてしまった時もありました。その度に試行錯誤し、自分が知らなかった自分と出会いました。また、ライフクリエイトライブコースの総合学習は、将来について考える手が見つけ、それを受け入れるきっかけになったと思います。

この三年間で、令和が始まり、**3.11** コロナ時代にと社会情勢も大きく変化しました。また、情報社会から創造社会に変わる過渡期の中で前例のない事態に直面する時が必ずきます。そんな時は、今までに成し遂げたこと、苦しんだこと全ての経験をもとに自分の頭で考え、何より行動することを忘れずにいたいです。

三年間での学び

七組 山本 朱里



高校での三年間は、とても楽しく充実したものでした。私が一番大切だと学んだのは友情です。一年生のときには友だちと探めたこともありましたが、話し合っただけで仲直りをして、話し合うことでみんなのことを知り、だんだんと探めることも減っていききました。学校行事では体育大会や藤蔭祭があり、みんなで助け合った結果、団結力が高まり、とても楽しい日々を送ることができました。慣れない高校生活もどんどん楽しくなり、学校に行くことが楽しくなり始めました。一番大切なのは友情と知り、友だちを大事にすることができました。もう一つ学んだことは、責任です。私は三年間ダンス部に所属してました。そこで私は部

長を任せられることになり、自身でも責任を持つようになりました。部長になる前は全然みんなをまとめることができず、決めなければならぬことも全然決まらず、困っているときがありました。しかし、部長になってからはみんなに支えられて、「頑張ろう」と思い始めました。みんなで協力することはもちろんですが、悩みを一人では抱え込まず、相談することも必要なことだと実感しました。まとめたり、指示したりすることは大変でしたが、おかげで成長することができました。大学進学後も自ら努力を怠らず、成長していきたいです。

トップアスリート

感謝の気持ちをお忘れずに

八組 大野 陸都



私は、入学当初はとても緊張していた、クラスでも友人ができるの心配してました。しかし、優しい人たちがばかりですぐにクラスに馴染めました。また、高校では部活動と勉強の両立は当たり前なので、中学校で部活動しかして来なかった私には、とても難しかったです。勉強面に遅れがでないように必死に授業に取り組み、初めての考査で高得点が取れてとて

も嬉しい気持ちになったことが印象に残っています。

三年生では新型コロナウィルスの影響で、学校開始が六月中旬になり、学校行事もたくさん中止になりました。体育大会も文化祭も学年別になりました。規模は縮小となりましたがクラス一丸となり行事に取り組むことができて、とても嬉しかったです。また、部活動も中止し、夏のインターハイがなくなりしました。しかし、コロナ禍でも希望を持ち、最後の秋の大会に向け自主練習を続け、大会に出場することができました。結果としてはチームの目標である大阪優勝は出来なかったですが、最後に三年生全員で試合ができたことに感謝しています。

この三年間で私は、たくさんの方々に助けられました。バスケットボールをさせてもらった親や先生方、チームの目標に向けて共に戦った仲間へ感謝したいと思います。四月からは社会人として、新たな環境で過ごすため、高校三年間で身につけた根気強さと感謝する気持ちを忘れずに充実した日々を送れるように頑張っていきたいと思っています。



三年間の成長

九組 ヴィットー 留希也



私はこの三年間、先生、家族、友人、クラブのチームメイトに感謝しながら学校生活を送ることができました。クラブでは、先輩方と共に一生懸命練習し、一年生から試合にできることができていました。時には先輩に厳しく怒られ、次の日の練習を休むこともありましたが、二年生になるとそれまでの行動を反省し、経験を生かしてチームを引っ張っていく人間に成長することができました。そしてそれは、クラブだけでなく、学校行事や校外での活動でも活躍する人間へと自分を成長させてくれました。そのように成長できたのは、私の尊敬する監督や先生のおかげだとこの三年間感じ続けてきました。三年生になると、キャプテンになり、周囲に気を配り、それに加えて「人のためにどうしたらいいのか」などを考えるようになりしました。そのような中でも毎日のように、素敵な先生やチームメイト、後輩などのコミュニケーションを通して刺激をもらい、人間性の向上を図ることができました。金光藤蔭高校に入学して本当に充実した三年間を送ることができました。ここで得た経験は、将来必ず役に立つと思います。



学年部長
佐々木 嘉弘



第三学年の先生から

約束の続き、夢の途中

一組 担任
酒井 克典



保護者の皆様、ご子息・ご令嬢のご卒業誠におめでとうございます。そして、疾風の如く過ぎた日々が、今は愛おしく思える生徒の皆さん、本当に卒業おめでとうございます。

さて、皆さん。あなたが高校生活で学んだ事は何ですか。探していたものは見付かりましたか。思い悩んだ時、自身の選択に自信を持って敢行できましたか。また、好きな人に、あなたの想いの全てを伝えられる様な場面に遭遇しましたか。

煌めく出逢いに心躍る麗らかな春も、気が滅入る灼け付く夏も、紅く染まる刹那の秋も、心燃やす凍て付く冬も、歩み続けた奇跡が今、あなたの軌跡となつて心に刻まれていきます。そんな今だからこそ、「見えるもの」・「分かるもの」があるのではないのでしょうか。

失敗して、悲しくて、悔しくて溢れたあなたの涙が空に虹を架ける。虹が照らす光が誰かを笑顔にする。その笑顔が希望と言う名の花を咲かせます。そんな夢の様な出来事も、気付かない内に経験し、現に、キラキラと輝く永遠に色褪せる事のない鮮やかな記憶として胸に

残っている事でしょう。

最後に私は今、あなたへの想いをこの手紙と歌に込めて書いています。あなたにこの手紙と歌が届いたら、さようならの時ですね。ありがたうの時ですね。どんな時も私の事を支え、理解と協力をし続けてくれた一組の皆さん、本当に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

約束の続きを聞かせて下さい。夢の途中の君に、会いにいきます。So long.

終わりは始まり

二組 担任
藤井 朱音



三年間ありがとう。

卒業式を迎えるにあたって、「あつという間の三年間」と言う人が多いですが、私はそう感じません。私自身は皆さん一人ひとりの出会いから常に喜怒哀楽を共有できたからだと思っております。皆さんはこの時を迎えてどう感じますか？

三年生がコロナ禍で始まり、先行きが見えない中、加えて進路など考えなければいけないことが多い中で、自分と向き合い、行動する姿は立派でした。行事ではコースを超えた交流も見られ、あらゆる場所で見せてくれた皆さんの活躍や成長

に、私自身も励まされ、何度も「教師冥利に尽きる」思いを味わいました。

卒業すれば、携帯電話を使っても、化粧をしていても、ピアスやネックレスをしていても、注意を受けることはありません。その代わり「評価」されます。その人の人となり、自分自身の言動が全てを表すことになるのです。これからは自分で自分を律していかなければなりません。「自由に耐えるか」ということと向き合っていくのです。

いよいよ、旅立ちの時。「環境が変わるから」という理由で事を成すのはやめましょう。願わくは、「自分が環境を良いものにする立役者」であってください。

「卒業式」は英語で「commencement」「始まり」という意味。ここからが勝負だと思えます。

卒業おめでとうございます。



別々の道

三組 担任
廣富 健口ベルト



三年生の皆さん、卒業おめでとうございます。私がこの学年に携わったのは、君たちが三年生になってからのことでした。

新型コロナウイルス感染症が全国で流行しており、今年度に入ってから緊急事態宣言が発令されました。本校もしばらく休校期間が続きました。しばらく君たちと顔を合わすこともありませんでした。そう考えると、私が君たちと関わったのは、一年にも満たない本当に短い期間でしかありません。そんな中で、本当に色々な思い出がありました。縮小されたながらも無事行うことができた藤蔭祭や体育大会、その他にもたくさんの行事がありました。これらの行事を通して、君たちとの距離が縮まったように感じます。やっとお互いの性格が分かり合えるようになったと思うと、もう卒業です。何だか寂しい気持ちになります。

これから先は、それぞれ別々の道を進むことになりそうです。乗り越えられそうにない壁にぶつかることもあることでしょう。そんな時は、すぐにあきらめてしまふのではなく、歯をくいしばって頑張ってください。いつも遠くから応援しています。

卒業生のみんなへ

四組 担任

角崎 由紀



ご卒業おめでとうござい
ます。担任としての一年間は本
当に短いものでした。

皆さんに出会った新学期は
既にマスクに覆われ、来る日も
来る日も消毒をして、毎日のト
ップニュースと言えば新型コ
ロナウィルス感染拡大で気も
滅入り、早く通常通りの生活に
戻りたいと願っていました。お
互いに見えにくい表情で、その
物腰と仕草を感じながら対話
することにも慣れて一年を超
える生活をしてきました。皆さん
は、例年にはない限られた時
間と空間の中で自分の将来に
ついて真剣に考え進路の意思
決定をしたのです。皆さんは、
本当に頑張ったと思います。心
の底から拍手を送りたいです。
行事では、藤蔭祭での一致団結
や体育大会での二人三脚でみ
せてくれた諦めない気持ちと
一生懸命な姿がとても印象に
残っています。一人ではできな
いけれどみんなとなら達成で
きる活動に心が躍りました。
これからそれぞれ進む道は
違いますが、一人ひとりの夢や
希望をもって自分の道を切り
開いていって下さい。そして、
人に対する優しさを忘れずい
つまでもどこまでも笑顔が続

く生活をしてください。応援し
ています。

私にとってこの出会いは一
生の宝物です。また会いましよ
う。皆さんの健康とご多幸をお
祈り申し上げます。

成長の種

五組 担任

神野 友哉



皆さん、ご卒業おめでとうご
ざいます。

大学や専門学校に進学する
人、就職して一足先に社会人
になる人、皆さんは自分自身で選
んだ道に進みます。人生はそれ
ぞれ人と同じということはある
りません。幸せに思うときがあ
れば苦しい瞬間もあると思ひ
ます。しかし、全部ひっくりめ
て、あなたの人生です。

人生とは、授業で教わった教
科のように答えがあるもので
はありません。

一つの山があれば、そこには
たくさんの道があります。どの
道を選んで山頂に着くこと
には変わりませんが、険しい道
を選んで山頂にたどり着いた
方が達成感は大きくなります。
だから、いろいろな人と出会い、
いろいろな経験をしてください。
そしていろいろな感情を抱
いてください。人はそうやって
成長していきます。ダメだと思

つても決して諦めたり投げ出
したりしないでください。苦し
い状況だからこそ、そこに楽し
みを見出しってください。諦めず
に成し遂げれば、きっと先の未
来には素敵なことが待ってい
ますから。

私も含めて、ここにいる皆さん
があなたの仲間です。また何
年かして同窓会で元気な姿を
見せてください。私は、また皆
さんに会えるその日を楽しみに
しています。今日までの日を
忘れずに、これからのそれぞれ
の毎日を頑張ってください。私
は皆さんを応援しています。

信じる力

六組 担任

池田 真人



生徒の皆さん、保護者の皆様、
ご卒業おめでとうございませ
す。私は、皆さんの三年間をさま
ざまな立場で見守ってきました
が、立派に卒業してくれたこと
を誇りに思います。

皆さんは、これからそれぞれ
の道を行んでいくことになり
ます。それはきつと険しい道
りです。壁にぶつかり立ち
止まってしまふこともあるで
しょう。そんな時は、初心に戻
ってみてください。何故、この
道を選んだのかを思い出して
みてください。きっとそこには

キラキラとした希望に満ち溢
れた自分があるはずですよ。その
時の自分の気持ちを信じてあ
げてください。その信じる力が
新しい活路を見出すきっかけ
になってくれるはずですよ。

私は、さまざまな仕事を経て
教師になりました。その過程に
は数えきれない程の失敗を重
ねています。しかし、失敗した
人間にしか見えないこともあ
ると思っています。何度失敗し
てもいいのです。自分を信じて
何度でも立ち上がれば人生は
どこからでもやり直すことが
できます。その失敗の数が多い
ほど、人の痛みが分かる人間に
なれているはずですよ。悲観せず
自分を信じ、それを支えてくれ
る周囲の人への感謝を忘れな
いでください。

人生は一度きりです。多くの
人を愛し、愛される人間となり、
自分の人生を輝かしいものに
してください。

成長の先に

七組 担任

横田 容子



ご卒業おめでとうございませ
す。保護者の方々には、今日こ
の日までご協力いただき感謝
致しております。

一年生のときの皆さんと卒
業する今の皆さん、自分自身
の中でどのように成長を感じて
いますか。一年生のときは「先
生、先生、どうしたらいい？」
と言って自分で決められな
かったり、注意をしたら「わか
ってる！」と言って拗ねたり、と
いうようなこともありました。

それから三年生になり、今、
何をすべきかを自分自身で考
え、行動できるようになってき
たように思います。わからな
ければ人に聞き、わかることは教
えてあげる、ということもよく
見かけるようになりました。あ
る日のHRでは、当たり前のこ
とを当たり前にできるように
なる、と目標を掲げてくれたこ
ともありました。

三年生になって、「俺も成長
したやろー」と成長を感じ取っ
てくれたり、「実はこんなこと
があつてしんどかった。でも、
耐えられた。」と話してくれた
り、いろいろな気持ちを打ち明
けてくれてうれしかったです。
進路活動では、書類の書き方
や面接指導を何度もして、もう

嫌だというくらい頑張りました。
他にも、学力補習や追認考
査など、もう嫌だと言っていた
こともありました。これからも
もう嫌だという場面に遭遇す
るはずですよ。でも、皆さんなら
大丈夫。嫌なことがあるからこ
そ頑張れます。嫌なことを悪い
ことと思わずに、乗り越えられ
る試験だと思つて立ち向かっ
てください。その先には成長し
た自分自身が見えてくるので
しょう。今後も成長するであらう
皆さんを応援しています。

やると決めるのは自分

八組 担任

山川 大樹



卒業生の皆さん、卒業おめで
とございます。四月から新
生活がスタートする皆さんへ
私から三つのことをお話し
します。

一つ目、「チャレンジ精神を
持つ」。目標に向かって努力を
怠らぬ、自分らしい人生を歩ん
でください。そして新しいこと
にどんどんチャレンジしてく
ださい。上手いかない時は、
周りの意見に耳を傾けること、
そこに成功のヒントが隠され
ています。

二つ目、「努力は実る」。これ
からの人生は今まで培つてき
たことが生きてきます。高校三

年間で勉強を頑張った人、クラブ活動を頑張った人、何か目標を持ち頑張ってきた人、それぞれの個性を新しい環境でいかに発揮してください。それが一人ひとりの長所です。

三つ目、「人生は自由である。」自由だからといって、いい加減な行動では結果はついてきません。失敗は自分の責任です。正しい判断をするのも自分。間違った行動をするのも自分です。「正しい」や「間違った」はその知識がないとわかりません。「無知は恥」という言葉があります。いつまでも誰かに教えてもらわなければわからない。スタンスはもう終わりです。これからは知識量で可能性が広がる時代です。常に向上心を持ち、勉強に取り組んでください。皆さんはもう大人です。自分で考えて自分で行動をしなければなりません。そして自分の生き方に誇りを持ち、言い訳のない人生を送ってください。

お別れの言葉

九組 担任
稲垣 陽一



皆さん、ご卒業おめでとうございます。

これから「自分の人生」を歩みだす皆さんに対し、私に心に留めている言葉を紹介します。

「きゅうりを植えればきゅうりとは別のものが収穫できると思うな。人は、自分の植えたものを収穫するのである」かの有名な二宮尊徳の言葉です。自戒の言葉であり、励ましの言葉でもあると私は思います。「人は、努力したこと以上の結果は得られない。良い結果を手に入れるためにはそれ相應の努力を怠るな」ということでしょう。また、「期待しすぎず、欲張らず、精一杯取り組んでいれば、確実に結果は得られる。自分を信じて取り組め」とも受け取れます。

また最近、ある指導者から、このような言葉を教えられました。「人につけてもらった火はお尻につく。その火はすぐに消えてしまう。自分でつけた火は心につく。その火は一度ついたら二度と消えない」

つけてもらわないとつかない火はすぐ消えます。本物ではありません。これからの人生において、絶対に成し遂げたい目標ができたとき、自分の心に、決して消えない火を燃やして、必ず実現できる人になってください。

簡単ではありませんが、この二つのことを、卒業する皆さんへの祝福と励ましの言葉として送ります。三年間ありがとうございました。輝かしい人生を送ってください!!



世界に一つだけの花

二組 副担任
木下 久美子



三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。私は進路指導を通して皆さんと関わる事ができ、思い出になりました。三年間の高校生活の中で、何かを頑張った人も多いですね。たとえば、クラブ活動を続けた人、勉強を頑張った人、親しい友達を作った人、さらに皆勤や精勤を目指して努力してきた人もいます。何事も継続してやることは大変なことです。この努力こそが、一生の中でずっと役に立つと思います。謙虚さを失うことなく地道な努力を積み重ねていけば、いつかきつと種子が

発芽して自分なりの花を咲かせることができるでしょう。いつ、どこで、どんな花が咲くか。実は皆さんがどう生きてきたかの証です。皆さんが、それぞれに「世界でただ一つの花」を美しく咲かせてくれることを願います。

卒業は一つの節目ですが、まだまだ学ぶことはたくさんあると思います。人間として一生が勉強の繰り返しです。何事も前向きに進む気持ちを忘れず頑張ってください。そのとき、一所懸命であればあるだけ、自分の一部になっていくのではないのでしょうか。社会の担い手として元気に活躍してください。健康には気をつけてください。

心地よさだけではない何か

三・四組 副担任
村田 浩



年末年始にかけて大学生の息子たちが帰省し、久しぶりに家族五人が集まりました。息子三人ともに一人前の反抗期があり、あまり家族の会話がなかつた時期もありました。が、家にいた頃とは違って会話が弾み、楽しいひとときを過ごすことができました。息子たちは高校卒業後一人

で暮らすようになり、家族に対する感じ方が変わったようで、少しこちらを気遣っているようにさえ思いました。

私自身が高校を卒業する頃には、「自分の決めた世界へ一人で飛び込んでいく」という「期待と不安が入り混じったような感覚」があったように覚えていますが。それは小中学校の卒業時とは全く違った感覚で、自立を意識した瞬間だったのかも知れません。

「次の一步を決めるのは自分」という自由の中で必死にもがき、ふと振り返ってみれば今まで当たり前にあつたものもありがたさが見えてくるのかもしれないですね。人生のステージは刻々と変わっていきます。

自分にとって心地よい時もあれば、そうでない時もあると思います。が、「心地よさだけでは測れない何か」をぜひ感じ取ってください。いつか全てはつながり、あなたの次のステージを豊かにしてくれるはずですよ。

前向きに

五・六組 副担任
門口 あすか



ご卒業おめでとうございます。学年団の一員として、家庭

科の教科担当として、皆さんと共に過ごすことができ、また最学年での思い出を共有することができたことを嬉しく思います。皆さんが先生方からいろいろなことを学んだように、私も皆さんから気づかされたことや学んだものがあります。この機会に感謝したいと思います。

最後に私から皆さんにお伝えしたいことがあります。それは、困難に立ち向かった時は、目を背けずに、考えて行動するように取り組んでみてください。皆さんは、四月から自分の選択した道に進むことでしょう。新たな気持ちで頑張ろうという思いの人がほとんどではないでしょうか。

しかし、誰しもがいつかは困難という壁にぶつかる時があると思います。その困難に直面した時に、皆さんならどうしますか？ やり方は人それぞれだと思えます。ただ、一度自分でどうすればいいのか考えてみてください。もし一人で考えてどうしてもわからない場合は、家族や友達、大学や専門学校の先生、職場の上司や先輩など周りにいる人を頼っても良いと思います。その時は周りの方への感謝の気持ちを忘れずにいてください。もし、失敗をしまつたとしても、落ちこむことはありません。失敗したことから、学ぶことや得るものがあると思います。高校を卒業しても、新たな場所や環境の中で、色んなことを吸収し、日々成長していくことを願っております。

置かれた場所で咲きなさい

八・九組副担任

青木 英人



ご卒業おめでとうございます。みんなと出会ってからのあつという間に「時」が過ぎてしまいました。新型コロナウイルス感染症拡大により、新年度の開始が例年に比べ遅れ、戸惑いの中でのスタート。貴重な学校生活を奪われたこと、仲の良い友人と会うように会えない日々、進学や就職等へのさまざまな影響が続く中、過ごした日々はどうだったでしょうか。

辛かったことや悲しかったこと、悔しかったことがたくさんあったことでしょう。しかし、それを乗り越え、今卒業を迎えるみんなへ、私が学生時代に恩師に授かった言葉を贈ります。「置かれた場所で咲きなさい」この言葉を聞いた当時の私は、漠然と「どんな場所でも活躍する人間になれる」という意味だと感じました。しかし、最近この言葉に含まれる他の意味が分かってきました。それは、ただ「置かれた場所で咲く」だけではなく、「その場所に立つまで」にどれだけの人が支えられているのか、「置かれた場所」で一人では咲けないということ

です。新型コロナウイルス感染拡大により、当たり前が当たり前

ではなくなり、思うように生活を送れない。そういう時に、周囲の人々の支えや、友人、家族のありがたみや優しさに気づかされます。卒業するみんなが今後、周りの人々への感謝や他の人々への優しさを持ち、置かれた場所で大きく咲くことを期待しています。

本当の自由とは

進路部長

中山 幸二



卒業すれば「自由」になります。制服も校則もないし、口うるさい先生だつていない。何かしようとすると大人と扱われて、大抵のことは認められます。でも「自由」を行使するには「意思決定」とそれに伴う「責任」が付いてくることを忘れてはなりません。皆さんが国語で習った安部公房の小説、『鞆』の中で主人公は、自分の「意思決定」を放棄し、すべての行き先を鞆の重さに委ねて、どこまでも歩かされます。そして「選ぶ道がなければ、迷うこともない。私は嫌になるほど自由だった」と語ります。しかし、自らの意思決定と責任を取る覚悟なしにして「本当の自由」なんてありえないのです。この先、物事を決める時、何かに任せたり、寄りかかったりせず、

しっかり自立し、責任をもって意思決定し、「本当の自由」を謳歌してください。最後に激励を込めてこの詩を送ります。

もはや

できあいの思想には

寄りかかりたくない

もはや

できあいの宗教には

寄りかかりたくない

もはや

できあいの学問には

寄りかかりたくない

もはや

いかなる権威にも

寄りかかりたくはない

ながく生きて

心底学んだのはそれぐらい

じぶんの耳目

じぶんの二本足のみで

立っいて

なに不都合のことやある

寄りかかるとすれば

それは

椅子の背もたれだけ

(茨木のり子『寄りかからず』)

卒業おめでとう!!



進学・就職を前に

様々な経験をして

一組 嶋田 美羽
大谷大学 文学部 進学



高校三年間で仲間と楽しいことや辛いことなど、初めてのことも含めて数多く経験してきました。今振り返ってみるとこの三年間はかけがえのない大切な思い出として私の心に残っています。七限目までの授業に加えて、放課後の英検対策講習・入試対策講習・長期休暇中の講習・桃山学院大学での勉強合宿・ECCでの一日留学体験・大学見学・海外語学研修など、さまざまなイベントがつづら折りのようにみつしりと凝縮した日々でした。金光藤蔭でしか体験できない貴重な時間を過ごすことができました。

文化祭では、少人数で何ができるのか、クラスで考え自分達が納得できるものを作り上げることができました。三年連続金賞を獲得できたことはとても嬉しかったですし、私にとっても非常に価値のあることでした。海外語学研修では、初めてシンガポールとマレーシアに行きました。海外の文化や人に触れ、自身の持つ外国や外国人のイメージが大きく変わり、世界から日本を見て視野が大きく広がりました。私はもともと文学と歴史を勉強することが好きで、大学進学後は、日本と

外国の懸け橋になりたいという一層強く心に思うようになりました。そして、第一志望の文学部歴史学科に合格しました。大学進学に一切の迷いや不安はありませんでした。金光藤蔭で学んだことを自信に、大学四年間で大いに飛躍し、夢の実現に向けて勉学に励み続けました。先生方、本当に三年間ありがとうございました。



自分自身と向き合う

四組 平井 舞莉亜
関西外国語大学 英語キャリア学部 進学



私の受験勉強は約百日という短い期間でした。しかし、この百日は私の人生において一生忘れることのない最高の思い出

い出となっています。

私は夏休みと同時に予備校に通い始めました。何もかもがゼロからのスタートだった私は、同じ予備校生の誰よりも遅れをとっていました。そこから自分自身と向き合う毎日でした。一分一秒が、折れそうになる自分自身との心の闘いでした。とにかく一歩一歩着実に積み重ね、次第に自信と力がつき、合格を掴み取れた時は諦めずに自分の可能性を信じて勉強して良かったと思えました。勉強する日々で辛い時、私の周りにはそっと見守ってくれた人や応援してくれた人がいました。その人達は私にやる気と力を与えてくれました。今の私があるのは、そうして支えてくれた人達のお蔭です。本当に心から感謝しています。

私は「合格する」というゴールを達成しましたが、私の夢が終わるわけはありません。また、目標が無くなったわけでもありません。この先の人生でどんな事が起こるかわかりませんが、これからも感謝する事を忘れず、自分自身と向き合いながら夢を追い続けようと思います。



夢への入口

五組 岸本 蓮太
(株)ニューヨークニューヨーク 就職



私は小さい頃から美容師になりたいという夢がありました。中学生の時に金光藤蔭高校には美容師になるためのコースがあることを知りました。そして、本校のライフクリエイティブコースに入學し、美容師になるための第一歩を歩み始めました。二年生でスペシャリティークラスに入り、理容美容の授業を受け、とても有意義な時間を過ごすことができました。三年生になり、進路について真剣に考える機会が多くなりました。専門学校への道も考えましたが、私は卒業後に就職し、一足先に美容師になることを決めました。それからは、就職活動に尽力しました。しかし、最初は考えがあまく、放課後にすぐに下校したりしていました。

夏になり、就職ガイダンス等を通じて、次第に自分自身のことだと実感しました。その後、何度も履歴書を書き、下校時間ギリギリまで面接練習を行いました。そして「株式会社ニューヨークニューヨーク」から内定をいただくことができました。私は四月から美容師見習いとして働きながら、通信教育で

専門学校へ通います。険しい道だとは思いますが、自分自身で選んだ道に責任を持って励み、有名な美容師を目指します。

社会人になるために

六組 山岡 櫻
(株)米八西日本 就職



私は、春からは内定をいただいた企業に就職し、社会人になります。就職活動に取り組みむ中で初めて経験することがたくさんありました。何度も履歴書を書き直し、面接練習でも上手く話すことができず、もう辞めたいと思うこともありましたが、その経験を通して失敗することの大切さを学ぶことができました。何度も何度も失敗を重ねるうちに、だんだんと失敗の回数が減ってきていることに気づきました。苦手だ、やりたくないと思うことにも逃げずに前向きに取り組むことで力がついていく実感を得ることができました。その積み重ねた努力を評価していただき、内定をいただくことができました。この経験を活かして社会人としても、嫌なことから逃げずに向かっていきたいと思っています。また、高校生活では、朝起きるのが苦手な遅刻してしまったり、体調を崩して何度も欠席してしま

は四月から美容師見習いとして働きながら、通信教育で

いました。当たり前のことですが、これからは日々の生活習慣を改善し、体調管理などの自己管理ができるように頑張りたいと思います。

Essential 「私にとって必要不可欠な存在」

九組 池上 拳伸
関西学院大学 経済学部 進学



合格通知をもらったあの日、私は憧れの大学に合格できた喜びと嬉しさを胸を躍らせていた。しかし、その反面、不安な気持ちも募らせていた。「勉強についていけないのか」「勉強と柔道は両立できるのか」などさまざまな不安が込み上げてきた。その気持ちが生活する中で日に日に強くなっていき、不安に押しつぶされそうな毎日を送っていた。しかし、そんな日々を過ごしながらも、私は今まで気付くことができなかったことに気付くことができた。それは、私の支えになってくれている人たちの存在だ。十八年間いつもそばで支え続けてくれた家族。合格を報告すると、まるで自分のことのように喜んでくれる先生方。面接練習で、私の頑張り涙を流してくれる担任の先生。毎日ふざけあつた友達。そして、なにより部活動における日々の練習で、数々

の熾烈な乱取りを通して、三年間心身共に人として成長させてくれた顧問、コーチの方々。辛い時も苦しい時も支え合い、共に泣き、共に笑い合った、私にとって必要不可欠な十人の最高の仲間たち。感謝してもきれいな人たちはばかりで、私はこんなにもたくさんの人たちに支えてもらっていることに気付くことができた。



卒業する皆さんへ

PTA会長
白井 一行



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

これから皆さんは自分が選んだ道へと進んでいくことになり

ます。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により緊急事態宣言が発令され、休校やクラブ活動の自粛等で生活の活動範囲が制限され進学や就職活動にも影響があったことと思います。その中で家族と過ごす時間が増えるという事に向き合い自分自身を見直すことができたと思います。

これからは、思い通りにならないことや厳しい現実と直面し「できない」と立ち止まることがあるかもしれませんが、「どうすればできるのか」を考えると、な時でも自分を信じて進んでい

ただきたいと思えます。卒業は、一つの区切りではありませんが終わりではありません。三年間共に学び競い合った友人、指導していただいた先生方とはこれから繋がっていきま

同窓会会長
西口 まゆみ



卒業を迎えられました皆さん、ご卒業おめでとうございます。

新しい門出にあたり「おめでとう」の言葉を送ります。金光藤蔭生としての高校生活はどうでしたか。きつと楽しかったと答えて下さると思います。

今年度はコロナ感染によって休校あり、自粛あり、行事の縮小ありで、経験したことのない学校生活であったと思えます。皆さんは、保護者の方、友達、先生方に支えられて過ごして

きました。が、何よりも自分自身の頑張りで三年間歩んできたはず。このさまざまな経験が、今後の人生の大きな糧になるはず。社会人として厳しい事もあるかと思いますが、初心を忘れず、感謝の気持ちを忘れず未来にむかって頑張っ

て進んでください。卒業される皆さん、このあたたかい学び舎である母校を訪れて下さい。そして、是非同窓会に参加していただける事を願ひ、役員一同心よりお待ちしています。

編集後記

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また保護者の皆さま、お子様の新たな門出に、お祝い申し上げます。また、この特集号を作成するにあたり、多くの方々にご協力をいただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。

今年度はコロナ禍の中、さまざまなことが例年とは違う形となつてしまいました。いつもならできたことができなくなつたり、規模を縮小して形を変えて行われたりと激動の一年間だったと思えます。

これから先も多くの変化を求められるかと思えますが、本校を卒業する皆様なら大丈夫だと信じています。皆様の本校での学びと出会いが、これからの皆さんの人生の礎となることを願っています。

胸を張り、それぞれの新たな場所へ活躍できることを、三年間の教員をはじめ、教職員一同願っています。

編集者(総務部一同)



